

## 採血基準改正に伴う準備状況(報告)

## 1. 採血時におけるリスクとその対応策を事前にわかりやすく情報提供(HP, 印刷物, 献血現場の表示等)

## (1) 事前説明

## ア. 初回献血者向け事前説明用 DVD の作製

内 容	400mL 全血献血の下限年齢を男性に限り 18 歳から 17 歳に引き下げることに付いて、初回献血者に対して、献血の受付時に献血前後の注意事項等の映像を視聴していただき、採血副作用の防止対策の一助とする。 移動採血は再生機器で視聴、献血ルーム等の固定施設は問診票回答システムで視認する。 内容としては、献血の流れや献血前後の注意事項等に重点を置いたものとし、献血当日説明用(映像時間 2 分 30 秒)と献血日前の事前説明用(映像時間 10 分)の二種類を作製する。
運用開始時期	平成 23 年 4 月より実施

## (映像イメージ, 献血当日説明用(映像時間 2 分 30 秒))



イ. ホームページの改修

内 容	献血の意義と感謝並びに献血者の安全性確保のための献血時におけるリスク及び採血副作用防止への注意事項等を、事前に献血者へ情報提供する。
運用開始時期	平成 21 年度末(実施済)

(日本赤十字社ホームページ “血液事業” より)

**初めて献血される方へ**

献血は、輸血を受けられる方の安全と献血をされる方の健康を守るため、様々な基準がございます。


また、まれに採血に伴う副作用が生じることがありますので、以下の内容をご理解のうえ献血にご協力いただけますようお願いいたします。

---

**献血前には「お願い」をお読みください**

「お願い」の用紙は各献血会場で献血前にお渡ししています。  
献血基準に関することや、採血に伴う副作用などについて記載していますので、必ずお読みください。

[「お願い」を見る](#)



**「ネックストラップ」の着用で初めての献血も安心**

初めて献血される方は、採血に伴う副作用が生じたり、献血を行う緊張により具合が悪くなることがあります。

各職員が初回献血者の方をサポート出来るよう、「ネックストラップ」の着用をお願いいたします。

⋮  
(省略)

(2) 献血会場入口

ア. 固定施設における映像配信システム(デジタルサイネージシステム)

内 容	<p>献血の意義と感謝並びに献血者の安全性確保のための献血時におけるリスク及び採血副作用防止への注意事項等を、献血ルーム等の固定施設に入る前に献血者へ情報提供する。</p> <p>同システムについては、平成 21 年 11 月から順次導入を開始し、現在、全国の各赤十字血液センター及び献血ルームへの整備を完了している。</p>
運用開始時期	<p>平成 21 年度末(実施済)</p> <p>なお、初回献血者向け事前説明(献血前・献血時・献血後等)用映像の配信は平成 23 年 3 月より</p>

(献血ルームへの導入事例)

(岡山県赤十字血液センター 表町出張所)



(秋田県赤十字血液センター 御所野出張所)



(提供情報例)

- 献血基準
- 献血の流れ
- 受付時に配布している「お願い」情報
- 初回献血者向け事前説明用映像  
(献血前・献血時・献血後等)
- 輸血用血液製剤の在庫情報
- 献血推進に係る広報(CM 素材)
- 献血推進キャンペーン情報
- 血液の知識 等

(3) 献血受付

ア. 初回献血者とわかる目印となるもの(ネックストラップ)等の作製

内 容	初回献血者とわかる目印となる物を身に付けていただくと共に、献血の手順やお願い事項等を記載したリーフレット(三つ折)を手渡し、受付、採血、検診及び接遇の全職員が初回献血者であることを把握し、常に注意を払い、安全性確保に努める。
運用開始時期	平成 22 年 3 月(実施済)

(ネックストラップ)



(表面)

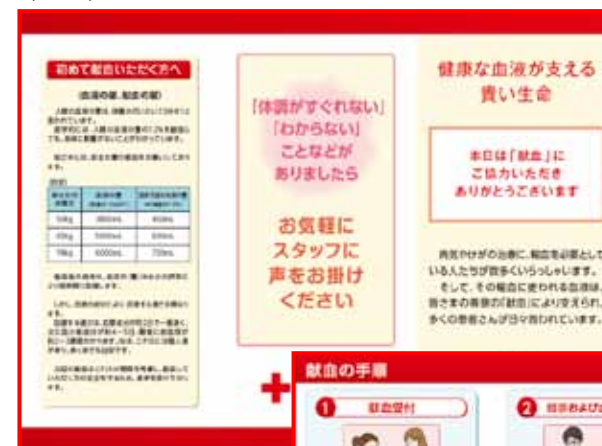


(裏面)

もし、気分が悪くなったり、めまいがしたら  
すぐにしゃがむか、横になって下さい

(リーフレット)

(外面)



(中面)



イ. 「お願い」リーフレットの改訂

内 容	献血者に手渡している「お願い」リーフレット（二つ折）について、インフォームドコンセントに係る内容（採血時に生じる副作用，献血していただいた血液，血液検査で異常を認めた場合のお知らせ 等）を簡潔明瞭にする。
運用開始時期	平成 23 年 4 月より

（「お願い」リーフレット）

（外面）



（中面）



ウ. 血液事業統一システムの改修

内 容	採血基準の改正及び問診票の改訂に適合したシステムとする。
運用開始時期	平成 23 年 4 月より実施





## (4) 事前検査

## ア 採血基準を血色素量に統一

内 容	今後、硫酸銅比重液の使用量の低下により、メーカーの生産中止が予想されること、また欧米では、硫酸銅比重液を採血基準の判定に用いている国は少ないことから、判定結果の客観性向上のためにも血色素(ヘモグロビン)による判定統一する。 現在、国内で使用できる簡易型ヘモグロビン測定装置は1機種のみであるが、危機管理上の面から2機種以上の機器を、本年度中に追加導入することとしている。なお、平成23年1月末時点で、既に全国の血液センター47施設中40施設(全体の85%)で簡易ヘモグロビン装置による血色素判定に移行している。
運用開始時期	平成23年4月より実施



## 2. 採血後十分に休憩できる環境整備

### (1) 献血ルーム等における献血後休憩スペースの拡張等

内 容	<p>献血ルーム等の固定施設において、施設面積、献血者数及び改装計画等の調査を行い、実態を把握する。社内の施設基準検討プロジェクトにおいて、採血室・待合スペース等の標準レイアウトの検討等を実施し、施設の平準化を図りガイドラインを策定する。また、設計に関する専門家(外部コンサルタント)の意見も反映する。 (平成 22 年 9 月に「献血ルーム施設整備ガイドライン」作成済)</p>
運用開始時期	平成 22 年度より実施

### (平成 22 年度以降の環境整備の実例)

埼玉県赤十字血液センター  
〔大宮献血ルーム ウエスト〕



大阪府赤十字血液センター  
〔まいどなんば献血ルーム〕



新潟県赤十字血液センター  
〔献血ルーム 千秋〕



### 3. 低比重者などへの対応

#### (1) ヘモグロビン不足により献血できなかった献血者への栄養相談の実施

内 容	ヘモグロビン不足により献血できなかった献血者にパンフレットを使用し、栄養相談を行うことにより、次回の献血に繋げる。
運用開始時期	平成 21 年度より実施

(パンフレット)



(ポスター)

